

地域マネージャーコラム

(村木 顯太郎)

ローソクの炎

ローソクの炎には、4つの力があります。

- 1つは足元を照らしてくれる炎、
- 2つ目は暖かさをもたらしてくれる炎、
- 3つ目は使い方でおいしい料理ができる燃料としての炎、
- 4つめはこの小さな炎が集まると社会を照らしてくれる大きな炎となります。



盆栽の剪定

職人は選定する時、枝に腰かけて盆栽の声を聴き剪定鋏を入れると
いいます。



人を外見から判断せず、心の枝に腰かけ、耳を傾け待つ（松）。

人は、悩みを話しながら絡まった悩みの糸をほぐしていく力を持っています。

踏切遮断機はどちらから開く

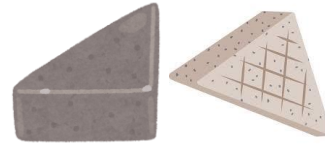


普段何気なく見ている踏切も、突然どちらから上がるかと聞かれる
と一瞬考えてしまいます。

普段接している人に対しても一歩立ち止まり見直すことも大切です。

たかがコンニャク、されどコンニャク

児童相談所に勤務していた時、上司から食事を誘われました。「おいしい料理をご馳走します」と言われて何を思い浮かべるでしょうか。上司はこんにゃく専門店で連れて行ってくれました。刺身こんにゃく、こんにゃくのピフテキなどさまざまな料理が出てきました。



こんにゃくを目の前にし、上司は、問題を持つ子どもたちも同じで、「なんだこんにゃくか」とみなしをすれば子どもたちは変わらない。どんな子どもたちもキラッと光るものを持っており、それを見つけるのが大切であることを教わりました。

「みなしをしない、見おとさない、見すてない」、みなおす三原則を大切にしてきました。

順風満帆な人生を送る人は一人もいない。

悩みを持たない人はいない。

時間が解決することは多い。人に悩みを打ち明けるのは勇気がいる。

ナースの意味



中学１年の春、扁桃腺の手術で塩浜病院に入院しました。術後の回診で私の手を握り、脈をはかりながら「お加減いかがですか」と話しかけられました。

思春期になった私に、母親以外の女性から手を握られ、胸のときめきを感じたことを思い出します。枕元に置かれた一輪のフリージャの花を見つけ「良い香りがしますね」と話しかけられ、それまで知らなかった花の名前を知り、今好きな花の一つとなりました。

術後、声の出ない私にそっと語り掛け、人の気持ちを表情からくみ取る接し方に多くのことを学びました。

看護師は英語でナース、保健師はパブリックヘルスナース、保母も NURSE Nu は Nature「自然に」 R は Read「読み取る」 S は Sign「サイン」 E は Emotions「情緒、喜怒哀楽」

黙って相手の喜怒哀楽のサインを自然に読み取れる人、それがナース！、ここにケースワークの極意がここにあることを学びました。



大人になるとなくす物



尾鷲の保育園を訪問した時、砂場があり、砂場に藤棚が日除けにかぶさっていました。1本の枝に年長さんらしき子どもが飛び上がり、ぶら下がろうとして何度も何度もチャレンジしていました。そばで見ていた小さな子も一生懸命真似をしていました。

園児のそばに近寄ると、“おじちゃんどこから来たの？何しに来たの？”と質問を投げかけてきました。園児（子ども）は、生まれついて3本の屋（矢）を持っています。「見たがり屋」「やりたがり屋」「知りたがり屋」の好奇心。大人になればなるほど、この3本の屋（矢）が乏しくなることを感じる今日この頃です。

十二単衣をまとう人の心



人は、喜・怒・哀・楽、生・老・病・死、エス・

イド・エゴ・スーパーエゴ*、の12枚を心身に秘め纏っています。

人間の心理は奥が深い。相手を理解することは親子でも夫婦でも難しい。

*エス（Es）は無意識に相当し、無意識的防衛

を除いた感情、欲求、衝動、過去における経験が詰まっている部分。エスは本能エネルギーが詰まっていて、人間の動因となる性欲動（リビドー）と攻撃性（死の欲動）が発生していると考えられている部分。

*イドは、第3者という意味であり、人の心の中にありながら、自分の思い通りにならない存在、意志によるコントロールができない心の領域である。それは、快楽原理によって支配され、おなかがすいたら泣き、おなかがいっぱいになったら、眠るというように、産まれたての赤ん坊にその原形をみることができる。ひたすら、心地よいもの、おいしいもの、楽しさを追求する心である。

*エゴはイドをコントロールしながら、危険をおかさないで、ほしいものの、欲求をみたすための行動をうみだす、心の領域をエゴ

*スーパーエゴは日本語では、超自我といわれている。幼児期における両親の役割に代わるものとして、エゴの1部にできた、道徳的な部分。人がもっとすばらしい自分になりたいと思ったり、社会や人のために働きたいと思ったり、困っている人を助けたいと思ったりするのが、このスーパーエゴの働きである。

3つの願いごと



「もし神様が目の前に現れ、3つだけ願い事を叶えてくれるとしたら何を願いますか？」

今まで出会った人たちにこの質問をしたり、書いたりしてもらってきました。問題を起こした子どもたちにも、障害のある人たちにも、お母さんたちにも機会あるごとに聞いてきました。

「…車が欲しい、お金が欲しい、健康になりたい、世界旅行がしてみたい、」障害のある人は、「障害がなくなるようになりたい、お嫁さんが欲しい、友達が欲しい…」

この神様への3つの願い事には共通点があることがわかりました。

1つは「物」2つ目は「夢」3つ目は「なかま」でくくることです。どんなに障害が重くても、問題を起こした子どもたちでも願い事は同じことがわかります。

このことから何を考えて支援をしていくべきかが見えてきます。物や夢は際限がありませんが、仲間、人として所属し、安心できる居場所が必要なことがわかります。

生きている人しかできない事



それは涙を流すこと



三つのクイズ(質問)

私は、児童相談所で面接の最後に3つの質問をします。

1つ目は、「この世の中で一番悪いことは何ですか？」

盗みや暴力など悪いことをした子どもたちはの答えは、自分のしてきたことを答えるが、私は、盗みや人を傷つけるよりもっと悪いことがある、それは、「母（親）を泣かすこと」

2つ目は、「この世の中で一番良いことは何ですか？」

1つめの答えを聞き、親を喜ばすことですかと答える。もし、今度悪い気持ちが生じたときは、母（親）の泣き顔を思い出すよう話します。

3つ目は、「この世の中で変わらないことは何ですか？」

それは「思い出」であることを話します。悪いことは一生忘れられない思い出となること、これから楽しい思い出をたくさん残すよう話して最後の面接としていました。